

# JIA NAGANO-KEN CLUB

Vol.89  
2011  
03.30

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>  
[jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)

## 東日本大震災で思うこと

久保隆夫さんをお送りして3ヶ月。今こうして雑稿を起こそうとしている時、JIAや建築への思いに共感を覚える友の一人でもあった久保さんとの交流を想い出し、たとえようもない寂しさを感じてしまいます。

久保さんの安らかなご冥福を心よりお祈りいたします。

3月11日東北地方を中心に発生した東日本大震災、それに続いた長野県北部地震はそれぞれの地域に甚大な被害を及ぼしました。

なかでも太平洋沿岸地域を襲った大津波は自然が持つ大きな力で、その直前まで人々が幸せに過ごしていた街を一瞬のうちにこの世のものとは思えない惨状と化し、福島原子力発電所での異常事態は目に見えない化学物質への恐怖が人々を不安と焦燥に駆り立てています。地獄の様相にも見えるこの状況は、TV・新聞などによって、時を分かつことなく私達に伝えられ、これらの事への思いをあらたにさせます。

これら情報で先ず感じる事は、人の心が持つ強さと勇気です。映像で見るだけでも眼を覆いたくなる惨状の中で「自分の育った場所でがんばりたい」と話す人々のあの強さとあの勇気。そして被災地を援助する多くの人々と被災者同志が助け合う姿。こうした映像を見るにつけ、人が人を思いやる心の深さをあらためて強く感じるのであります。

多くの避難所の映像には、住まいを失った人々が一日も早く落ち着ける場所を求める姿が映し出されています。住まいを失った人々にとって、安らかになる場所などあり得るものではないでしょうが、建築を志す心でこの光景を見たとき、暖かい場所で家族が寄り添いお互いを励ましあって今を考え明日を考えるだけ



会員のつどい



会員作品展



卒業設計コンクール

の場所さえあれば、それはひと時の安らぎの場所になるように思えるのです。

多くの人々によって昔々と築かれた街が、自然の大きな力によって一瞬にして崩れ去った現実は、自然に対する人間の不遜さを思い知られたように思います。

私達はいつからか効率性・経済性の名の下に「分けて整理する」考え方を金科玉条にしてきたように思います。人の住む場所を用途で分けて機械の力で人を結び付けたり、住まいの内外を厚い壁で区切り機械の力で生きる環境を造ろうとしています。そして、プライバシーという言葉で人と人との分断しようとさえしています。ケイタイやメールが日常的なコミュニケーションツールとなり、顔の見えない社会となりつつあります。

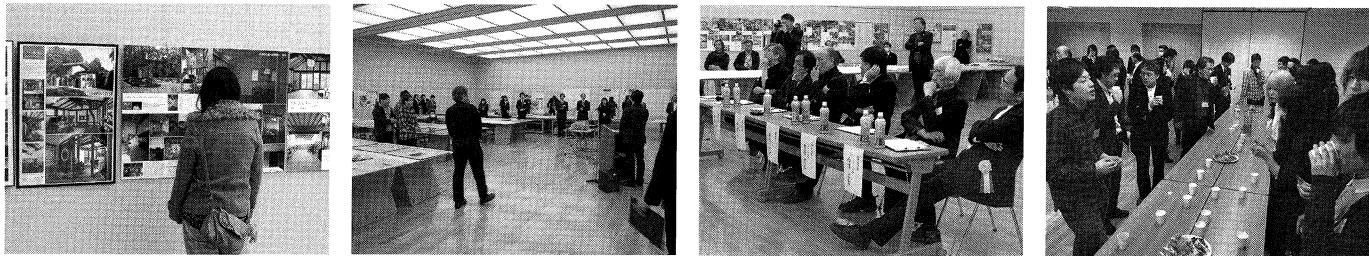
「自然との共生」「環境との共生」は掛け声だけだったのではないでしょうか。今、私達は人が主人公の共生論ではなく真の意味での共生を考えなければならぬ時にあります。

人々の住まい、人々の街を思うとき「グローバリズムと消費社会の中で、建築が目指す志がボケてしまっていないだろうか。内向きの作品主義に走る建築家の責任は大きい。大衆に迎合するのではなく、人々が心から望むものと建築家が実現しようとするもの、そのベクトルが一致する時、建築は街を変え人々を変えていく力となる。建築の力は、人々の共感の中に現れる」という内藤廣氏の私達へのメッセージは、私の思いをあらたにします。

この災害は私達に「人の生き方」をあらためて考える機会を与えてくれました。極端から極端に振れることなく「人の確かな生き方」を確認することから始めなければならないと私は思います。

私達は「人のために人が幸せに生きる場を創る役割」を与えられているのですから。

『第5回建築祭』が松本美術館にて3月12日(土)～13日(日)の2日間にわたり開催されました。今年度の建築祭は、20回目を迎える県内の大学・専門学校・高校生の「長野県学生設計コンクール」、長野県クラブ会員の「会員作品展」と作品レビューを行いました。JIA長野県クラブの活動をより多くの一般市民の方々に知ってもらうとともに信州の建築家との触れ合う場として、大勢の方に参加していただきました。なお、東日本大震災により講演会は中止とさせていただきました。



## 会員作品展レビューに参加して

今回の会員作品展は、広い会場で学生卒業設計コンクール作品の展示と同室で行われました。順路から横一列に並ぶ作品パネルが見事で各展示ごとのスペースも広く数名で来館された方でも一緒に回観でき良い展示だったと思います。私は都合で作品の出展はできませんでしたが、参加者のレビューを拝見させていただきました。なかなかパネルを観ただけでは読み取れない、作品への想いを伺うことができました。例えば施主からの要求事項と敷地条件やまわりのコトを考え、建築として具現化するまでのプロセスから奮闘した場面や愉しんでいる様子を聞くことができました。

作品展への出展も大切な表現の場ですが、よりレビューの参加は会員同士が発表し質問評価することで作品または自分を客観的に見つめることができる良い機会だと思います。特に今回は自分とは違う方向や想いを刺激として感じ、気づかされる機会になりました。質疑では、作品だけでなく展示パネルの構成について質問

ができる場面もあり、作品同様パネルの表現も隠れた個々の拘りや想いを聞くことができました。

自身研鑽を高める良い機会になりました、ありがとうございました。



## 会員作品展 参 加 者

赤羽吉人・甘利享一・荒井 洋・新井 優・安藤政英・小川原吉宏・尾日向辰文・片倉隆幸・川上恵一・菊池弘之・吉川一久・君島弘章・倉橋英太郎・清水国寿・武田誠彦・野口大介・林 隆・広瀬 肇・福島 透・藤松幹雄・松下重雄・丸山和男・丸山幸弘・山口康憲・山田健一郎・吉田 満・轟 真也

## 長野県学生卒業設計コンクールの審査を終えて

泉 幸甫

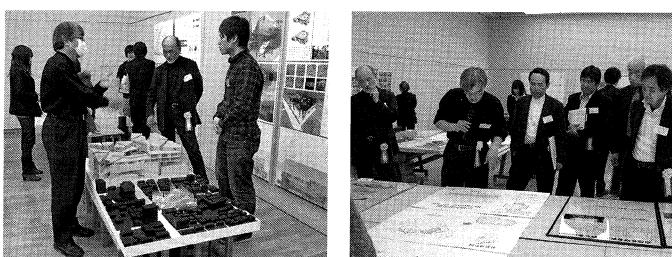
信州大学の卒業設計に取り組む6名の学生が全員出品していることは素晴らしいと思いました。最近の国立大学の学生の作品は面白いものもありますが一般的には非常に硬い感じの作品が多いのに比べ、信州大学の学生の作品は建築を考えるということをしっかりと教育されているという印象です。6作品すべてがある程度のレベルの完成度ですが、ずば抜けて良いという作品がなく、どれが一番になってもおかしくない作品でした。もう少し自分のやりたいことを前面に出して表現していくことも必要であると感じました。これから建築というものを考えるときに、今までの決まりのプログラムはどう応えていくかというよりも社会あるいは既成の問題をどうとえていくか。様々な条件を統合し、考えを積み上げて一つのかたちにしていかが問われると思います。

専門学校の作品はたった1校であれだけの作品を出展することは大したことであると思います。作品の多くは自分のテーマに対して敷地のことを考え、地域のことを考えているのですがそれが表現しきれていないし、味方に付けていない部分を感じられました。もう少し踏み込んだところも必要であると思いました。実際に社会に出て一つのものを創り上げていくためには様々な問題をクリアしていくかなければなりません。常に視野を広げていこうとする意欲を持ち続けてもらいたいと思います。

高校については、私は昨年、日大で高校作品の審査委員長をやらせていただきました。

また、全国の高校から作品を集めています。それはもっとレベルが高かった。長野はもっとレベルを上げていく必要があるのではないかと思いました。建築計画的にはしっかりと押さえている作品や建築空間のつながりをどのように作っていくかを考えている作品など様々ありました。基本的な姿勢をしっかりと押さえた上で、建築の好きなところを伸ばしていくことが重要なのではないかと思いました。

一つの県の中でこれだけの作品が集まり、しかも20年間も長い間続けられることは大変すばらしいことです。これからも続けていっていただきたいと思います。(学生コンクール当日に泉先生が話された審査講評をもとに原稿としてまとめました。)



【出品者】	勝又 梢・木下 優奈・今牧 貴博・塩沢 悅（飯田長姫高校）	油井 鉄平・酒井 敏美（池田工業高校）
高木	獎平・西澤 光貴・半田 望・堀内 美貴也・内堀 裕也・杉浦 綾・関 磨弦（上田千曲高校）	
内山	祐輔・岡澤 甫・北村 翔・関口 寛康・鶴田 雄一・常田 啓弘・宮澤 知弘・宮澤 直也・	
松林	恭平（長野工業高校）	
土屋	拓晃・宮坂 貴明・戸谷 ひかり・遠藤 幸太・中曾根 悠揮・塩原 裕里・渡辺 未彩・樋口 翔・	
中澤	真人（上田情報ビジネス専門学校）	
植松	千明・門井 美樹・竹之内 芙美・鶴見 晋太郎・長田 純一・松崎 貴紀（信州大学）	

3月13日、今年で第20回となる長野県学生設計コンクールが、松本美術館で行われました。11日の巨大地震の影響で、前日予定されていた、泉幸甫氏の講演会も中止されましたが、前夜、開通したばかりの列車での審査のために、先生は駆けつけてくださり審査委員長務めて下さいました。また、この地震で交通が混乱している中、堀越英嗣氏はじめ、他県のクラブからも駆けつけていただき、総勢6名の審査員で9時過ぎから審査が始まりました。今年は、高校の部22名、専門学校の部9名、大学の部5名の作品が展出されました。

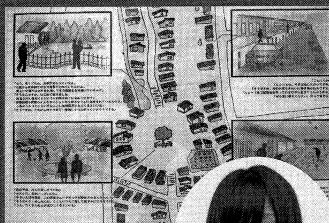
まず午前中2時間ほどかけて、各審査員が、全作品を観て廻りました。専門学校生、大学生は自分の作品に付き、ときどきしながらも、設計主旨を説明したり、審査員の質問に答えていました。

一次審査で、各審査員、各部門5作品ずつ選び、得票数を参考に、委員長のリードで、5作品が選ばれました。専門学校、大学生については、選ばれた作品のプレゼンテーションが行われ、審査委員の厳しい質問の洗礼を浴び学生は大変貴重な体験をしたと思います。これらの作品について各審査員の意見交換の後、各審査委員の得票を基にさらに審査員の意見を審査委員長が集約し、各部門の、金賞、銀賞、銅賞、奨励賞が選ばれました。

審査・講評を通して、審査委員からは、「建物の建つ場所の周辺環境を考えることの重要性」「立体空間として思考することの大切さ」「やりたいことを素直に表現することの大切さ」等厳しい中にも大変貴重な言葉が聞くことができました。「今日の評価は、たまたま今日の審査員の評価、これから建築に対する取り組み次第で、表彰されなかつたひとも含め次の評価は変わる。それぞれに可能性が拡がる。」学生にとって、素晴らしい経験となり、また、審査に立ち会った全員にとって、建築の面白さを感じる貴重な一日となりました。



## 受賞者のひとこと



上田情報ビジネス専門学校 渡辺 未彩

私はこの新しい商店街の設計を行うにあたり、現在の買い物スタイルについても考えました。インターネットでの売買、コンビニやドライブスルーでの簡易的な買い物、あいさつや会話はなくマニュアル通りの言葉だけで行われる買い物…など、便利で迅速に行われる半面、人間関係の希薄さがとても気になりました。また、買い物難民という言葉も最近よく耳にします。新しい商店街を計画するにあたり、建物や敷地の整備などハード面だけではなく、そのような社会現象や社会問題などのソフト面も改善できたら、と考えていました。現在はまちが新しくきれいに整備されると同時に、他人との距離が遠くなり、相手に対する関心が薄くなっているように感じます。私は思いやりや気遣いの心などを忘れてほしくない、大事にしていきたい、そういう思いでこの作品を作りました。この経験を糧に、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



信州大学 竹之内 芙美

多くの方々と自分の作品、考えについて意見交流できる良い機会となりました。私の卒業制作は、衣服のもつ様々な属性を建築に応用しようとする試みです。衣服の西洋と東洋の構成を見習い、ドレーピングされた一枚布を端切れなく全て使って建築を構成していきます。1枚の布を想定し、そこから切り出した部材(布)を縫い合わせ、その交線に竹を構造材として通し立体造形をつくります。こうした作り方は同時に、衣服的な解体運搬や可動性も視野に入れることができます。更に3つの敷地を想定し、気候の寒暖、乾湿による服の差を建築に取り入れていきます。これは、建築と衣服の近似性と両分野の対話の可能性の提案でもあります。

審査員の先生の「布のような普通ではない素材を使っていくことは、これから日常生活に必要であり、このような斬新な考え方でチャレンジすることは良い」という言葉を励みに、自分の考え方を信じて社会に必要とされる建築家になれるよう頑張りたいと思います。



## 第20回長野県学生卒業設計コンクール 審査結果

### 高校の部

- 金賞 勝又 梢**  
A triangle gallery  
～人と美術に親しむ場～
- 銀賞 木下 優奈**  
こどもの城  
～中庭に向かって開かれた保育園～
- 銅賞 宮澤 知弘**  
Absorptive Library

### 専門学校の部

- 金賞 渡辺 未彩**  
商店街と暮らす
- 銀賞 遠藤 幸太**  
人と自然が奏でる空間
- 銅賞 宮坂 貴明**  
森の中で未来を想う  
～みんなでつくる芸術～
- 奨励賞 塩原 裕里**  
パラリ  
～本をちりばめたすてきとしょ～

### 大学の部

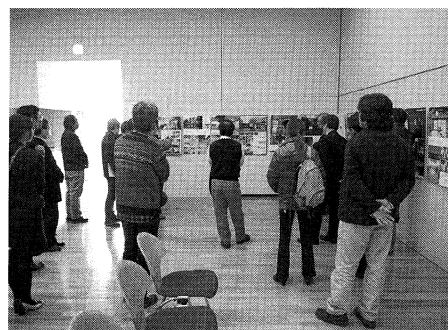
- 金賞 竹之内芙美**  
一枚布の家
- 銀賞 松寄貴紀**  
re;rule
- 銅賞 長田純一**  
Alley of the city
- 奨励賞 鶴見晋太郎**  
教室はゆれる
- 奨励賞 門井美樹**  
生きる人間

## 建築祭を終えて

小川原 吉宏

第5回建築祭は東日本大震災翌日の開催となりました。3月12日の第19回文化講演会は関東圏交通網大混乱の最中で中止となりましたが、講師の泉幸甫先生は、翌日行われる卒業設計コンクール審査のためにと、混乱の中にも拘わらずかけて下さいました。遠方よりお越しいただいた審査員の皆様、会員・事務局、賛助会の皆様、このような大災害時にご参加ご協力頂きまして本当に有難うございました。今年の会員作品展と第20回長野県学生卒業設計コンクールは共に松本市美術館市民ギャラリーでの開催となり、広い空間でゆったりした雰囲気の中での審査会となりました。卒業設計コンクールにおいては開催時期の問題もあり

残念ながら高校生が当日参加できませんでしたが、専門学生・大学生たちの熱意のこもったプレゼンが多数ありました。審査員の方々との積極的な討論から、「建築とは何か」を根底から考えるアカデミックな公開審査となり大成功に終わりました。この度の未曾有の大震災の中で開催することができたのは、会長・副会長・藤松事業委員長の決断、JIA長野県クラブ会員の意識の高さがあったからこそこの結果であると思います。また、JIA長野県クラブには関東甲信越支部地域会の方々との深い信頼関係があることを改めて実感した、忘れる事のできない建築祭となりました。



## 第二回会員の集い 「出澤先生を囲む会」に参加して

君島 弘章

2月22日第二回会員の集いで出澤先生のお話を聞く機会をもてました。出澤先生は、とても柔らかい表情でお話しされているので、ついこちらも柔らかく聞いてしまうのですが、出澤先生のお話は、襟を正して聞かねばならない内容で満ち溢れておりました。

題名は「建築に関わり思うこと」。東京芸大時代のお話、大林勤務時代のお話、佐久に帰郷してのお話、建築士と建築家についてのお話でした。建築設計における「専業、兼業問題」については、大林に勤務された経験から、専業でなくともゼネコン設計部にも素晴らしい資質を持ち立派な志で設計に従事している設計者もおられるとの見識を示されました。指名顧問関わっても、参加しないのはクライアントの顔が見えない仕事は自分に向いていないことなど、御自身のスタンスを示されました。(僕は、

個人的に感動しました。)「建築士とか建築家とか専業兼業などという狭い枠で考えるのではなく、誰のために何のために創るのか。地域に根ざした建築活動が必要ではないのかという思いがいまはある。」とおっしゃっておられました。

出澤先生のお人柄から、若手が先生にフランクに、そして、おおいに質問するなど楽しい会となりました。そしてそのあと皆で持ち寄ったお酒で更に出澤先生を囲み、おおいに盛り上りました。お話を聞いてしみじみ感じたことは、出澤先生の芸大時代の師であった山本学治さんの精神的影響が感じられたことでした。若い時の学びは人生に大きく影響するのだなあ。。。と 感動をいただいた一日でした。



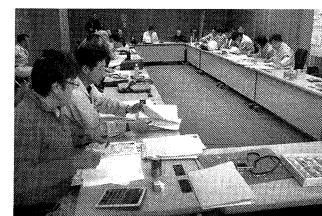
## 栄村での被災地支援活動報告

長野県北部地震による栄村の被災地支援に会員皆さんの協力を得て、3月25日より7日間、4月13日より3日間、長野県クラブでのべ40人、他建築士会、県建設労働組合、事務所協会の方々と共に支援活動を行いました。主な活動内容は住宅相談と、村内の公共建物の被災度調査。そして罹災証明のための被害状況調査が中心です。

住宅相談は戸別に村内800戸余りの家をすべて訪問し、内部の被害状況の把握や、住まわれている方の意向調査、住民の方が応急危険度判定の内容に疑問があつたり、判定では赤紙(危険)となっているけれど、自分としてはこの家に住みたいが、実際のところどうなのか、という疑問に具体的に答えるなど、様々な相談に応じました。公共建物の被災度調査

では公民館から公衆トイレまで村内の公共施設の被災状況を調査し、各施設の被害部分の数量を拾い、値入をして概算見積書をまとめるという作業をしました。

協力していただいた方本当にご苦労様でした。





2011年1月4日に逝去された久保隆夫会員を偲び、久保氏のプロフィールと活動の軌跡をご紹介致します。

久保氏は(株)宮本忠長建築設計事務所の副所長として数多くの秀作を手がけられ、一方では、3期6年に亘ってJIA長野県クラブの副会長という重責を果たされると共に、JIA支部の役員としても多くの痕跡を残されました。

ユーモアに溢れたやや辛口な物言いは、常に「大人の建築家」としての重みを持っており、私達に不足しがちな客観性のある視点から問題の本質を突くということの大切さを示唆してくれました。夜9時過ぎに委員会討議が終わってからも「事務所でレビューがあるから」と仕事に戻る久保氏に、呆れながらも頭の下がる思いをしたことが忘れられません。

地域に根ざした専門家としての搖るぎない原点に立ち、地域社会との信頼関係を大切な絆として活動してきた建築家の足跡を読み取って頂ければ幸いです。

JIA長野県クラブ会長 赤羽吉人

### ●来歴

1949年

1975年

2004~2009年

2005~2008年

2009年~

長野市立博物館

小布施町並修景計画

信州高速美術館

森鷗外記念館

北九州市立松本清張記念館

松本市美術館

小布施町生まれ

東京電機大学工学部建築学科卒業

株式会社宮本忠長建築設計事務所入社

JIA長野県クラブ副会長

JIA関東甲信越支部常任幹事

株式会社宮本忠長建築設計事務所代表取締役副所長

昭和56年度日本建築学会賞／第2回公共建築賞優秀賞／建設省公共建築百選／第10回JIA25年賞

第12回吉田五十八賞／第32回毎日芸術賞／第11回信毎賞／

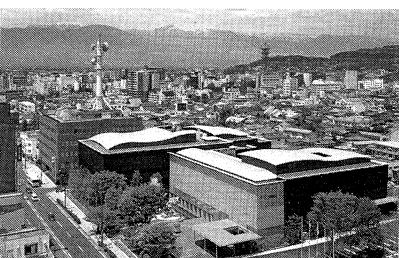
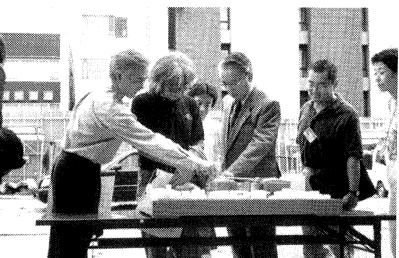
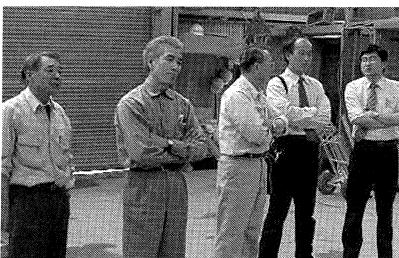
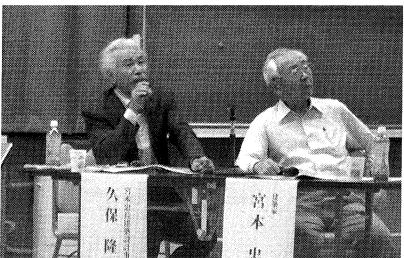
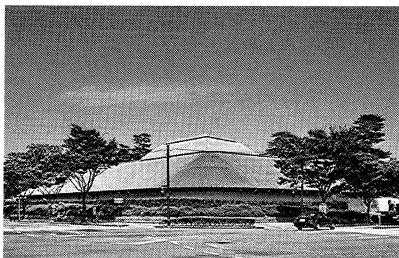
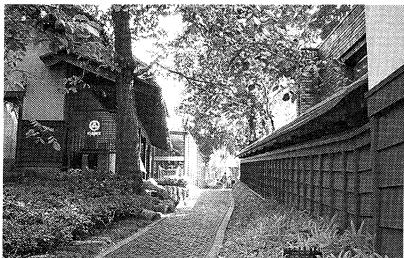
2006年土木学会景観・デザイン賞最優秀賞他

第6回公共建築賞優秀賞

第3回しまね景観賞一般建築部門優秀賞／建設省公共建築百選

第41回建築業協会賞(BCS賞)／第2回北九州市都市景観賞

第44回建築業協会賞(BCS賞)／第60回日本芸術院賞／第12回公共建築賞優秀賞



### 久保君へ

久保君ともう一緒に仕事をすることができないという現実に、とても戸惑っている。私も体調を崩し、葬儀に出られなかつたので尚更、実感がわからないのかもしれない。昨夏、私の入院中見舞いに来てくれたとき、私が体重が減ってしまったと話したら「所長、僕の真似しないで下さいよ」と、そう言っていたずらっぽく笑っていた、君の明るく、そして茶目っ氣のあるやさしい笑顔を思い返すと、初めて会った時の事がよみがえてくる。採用の面接の時、何か建築に対して持っている、とても意欲のある青年だと感じた。君はあの時の情熱のまま、長野市立博物館・松本清張記念館・松本美術館など事務所の代表となる様な作品すべてに関わり、現場のまとめ方も非常に上手く、大変感謝している。

建築家としての60代、70代へと円熟味が出てくる仕事ぶりが見れないのは残念だが、もしかしたら、もう一生分の仕事を完遂していたのかも知れない。今でもふとした時に久保君に聞いて見ようかとか頼んでみようかななど思ってしまう時がある。君がいなくなってしまい、本当に悲しく辛いのはきっとこれからだろう。

長い間お疲れ様でした。心からご冥福をお祈りいたします。

合掌  
宮本 忠長

## 久保さんへの言葉

会員

かわいい女性が居るから、見に行かないかい？これが最初の言葉であった。頭痛でもないのに頻繁に通院していた、勿論それが今の奥さんである。それから30数余年、数多くの貴重な経験を胸に携え、否貴重すぎるがゆえにもう一回経験したいと転生を望んだのかもしれない。今は一人のかけがえのない人格に出会えた事に、感謝の念で一杯である。……………荒井 茂明

頂いたものがこんなにあるのに、恩返しできないままでいます。初めて社会に出たとき、久保さんの元で働き、純粹に建築と向き合う姿勢を学びました。熱く暖かい。これから私は頂いた精神を胸に高みを目指したいと思います。出会えたことに感謝します。本当にありがとうございました。……………池森 梢

久保さんからは、広く全体を見る視野をもつ事の重要さを教えていただいた気がします。きっと、天国でも粋(neat)な姿でプレゼンテーションをされていることでしょう。ご冥福をお祈りします。

……………市川 英一

久保さんには、JIA入会当初いつも気さくに声をかけていただい、他の方とお話するきっかけを作っていただきました。その心使いに感謝しています。まだまだ活躍してほしかった。色々教えてほしかった。ゆっくり休んで下さい。……………伊藤 正明

久保さんは高い理念を持ちそして優しかった。また叱咤激励をしていただき育てていただきました。本当に感謝申しあげます。僕が芝浦工業大学の非常勤講師をしていたころ学生と一緒に小布施の町を案内していただき素晴らしいレクチャーをお聞きしたのが昨日のようです。心からご冥福をお祈りいたします。片倉 隆幸

「久保さん、事務所に出てきて大丈夫ですか」昨日退院したばかりの久保さんに所員が声をかける。「あの仕事そろそろアボを取って進めようじゃないか」とすかさず答えた。自らの家族を横に置いて、頭の中にはいつも仕事の事。常にふたりの施主を相手に作品を作り続け、ひとりの師に捧げたあの情熱はとても真似できません。久保ちゃんありがとう。……………勝山 敏雄

久保さん、まだまだ活躍して頂かなければならない方なのに、すごく残念です。JIA長野県クラブをどのように引っ張っていかれるのか期待していたところなのに…心よりご冥福をお祈りいたします。……………上村 保弘

もうあの少年のようないたずらっぽい笑いを含んだ優しいまなざしに接せれないと思うと、その眼で会議などの折に「どう思う？」と聞かれるたびに「ちゃんとを考えているか」と試されているかのようで、でもそれがちょっと楽しみもありました。もっといろいろ聞いておかなければいけないことがあったように感じられて、でもその機会は既に失われてしまったのだと思うと寂しいものがあります。……………北原 一樹

茅野市にイオという西友系店舗が有ります。外壁の大きな木格

子やガラスの岩ヒバリが乗る菱形の棟飾のデザイン。地域の伝統を新しい型として織り込んである建物です。久保さんに聞いてみたら「あの岩ヒバリね、僕の仕事だよ」と明るく答えてくれました。苦労は見せずにかっこ良く僕にとってそんな人でした。ご冥福をお祈りします。……………吉川 一久

久保さんとの出会いは、帰郷し設計事務所勤務の頃、視察で南牧村中学校を訪れた時でした。久保さんが計画主旨を明確に述べられ、校長先生が「中部建築賞」の受賞を熱く語られたのを、もう20年以上前の出来事ですが克ッキリ憶えています。御冥福をお祈りいたします。……………木下 光

久保さんにジャズの流れるスナックに連れて行ってもらいスコッチをごちそうになったことがある。ジャズに興味のない僕の横で静かにジャズに聞き入っていた久保さんが思い浮かぶ。そんな席で「キミちゃん、ドカーンとエキセントリックにつき走れ。」といきなり言われた。久保さんの内に秘めた建築に対する熱い魂を感じた瞬間だった。あれから数年たった今、出来の悪い後輩の僕はいまだに、まったくエキセントリックでなく、転びながら、ただ精一杯に建築を作り続けている。「キミちゃん、よーし、大人になったなあ。うん、うん。」久保さんに言わされた言葉がなつかしく思い出されます。言わされた僕は久保さんを睨みつけ久保さんは素知らぬ顔で笑い返していました。突然久保さんがおられなくなった今、久保さんの愛車のBMWの灰皿に、まるで新品のように整然と並べられた「煙草の吸殻」が思い出される。久保さんらしい几帳面な一面が、なつかしく思い出されます。……………君島 弘章

少なくもお会いする度に大きな影響と刺激をいたいたいた久保さん。いつも冷静で紳士なその背中から建築に対する想いや姿勢を教えていただいた気がします。その想いを学び歩んでいきたいと考えています。心よりお悔やみ申し上げます。……………倉田 政人

久保さん、私が、久保さんに、初めて会ったのは、26歳の時、今から35年前の軽井沢の、宮本先生主催の、環境大学での、講義の後の野球大会でした。吉坂隆正、川添登、村松貞次郎 各先生方の名講演で、興奮冷めない中、お互いに確か、ホームラン打ちました。それ以来、何故か、馬が合い、宮本事務所に行けば、声をかけ、建築談に花を咲かせたものでした。きっと大変忙しい中、迷惑だったでしょうか？又、よく、「倉ちゃん、JIAいっしょに、やろうぜ！」と言ってくれました。それが、私、今できません。若い後輩達のために何かやろうとするのですが、逆に迷惑かけているようで、申し訳ない。しかし、JIAの会員として、誇りを持って、時間の許す限り、地域のため、日本の為、地球の為に、建築を通して頑張りたいと思っています。久保ちゃんの分も頑張ります。見てて下さい。ご紹介頂いた、小宮山吉登もがんばっています。やすらかに…

……………倉橋 英太郎

大変な時、苦しい時、久保さんの背中を追いかけて、解決の糸口を見つけてきた様に思います。遠い廻へ行ってしまったけれど、これからも背中を追いかけることが多々あると思いますので、時々は見守ってください。よろしくお願ひします。…………小宮山 吉登

JIAに入会して13年、入会当初、会の活動に参加しても右も左も分からぬ有り様。そんな時、どこの馬の骨か分からないぼくにいつも声をかけてくださったのが久保さんでした。二次会にも誘っていただきました。「こみちゃん、このフィールド(JIA)は大事にしろよ」といわれました。退会を考えた時もありましたが、いつもその言葉を思い出し支えにしています。ありがとうございました。かっこよかったです。……………小宮山 直樹

第7集の出版委員長として久保さんに「まわりのコト」の原稿依頼をしました。無理を承知でお願いし、案の定タイムアップ。しかし、編集後記を書いているとき、お元気そうな声と共に原稿が送られてきました。第7集編集後記に久保さんの言葉を載せています。われわれに残してくれた最後の言葉となりました。この言葉をかみしめたいと思います。ご冥福をお祈りいたします。…………清水 国寿

久保さんには公私ともに大変お世話になりました。頂いたご恩をいつかお返しなければと考えておりましたが、それも果たせぬこととなってしまいました。残念でなりません。久保さんの教えは、私なりに建築の枠を超えた今後の人生に繋げていきたいと思います。本当にありがとうございました。……………下崎 明久

あまりにも突然の訃報に言葉もありません。これから益々力量を発揮して、建築界でご活躍されるはずの人だったのに。人の意見をよく聞き、的確な判断と対応の早さ。何時も、暖かみを持ちながらきりとした眼差しが俊敏さと洞察の深さを感じさせていましたね。急ぎ過ぎましたね。宝を失いました。ご冥福をお祈り致します。

……………須田 考雄

久保ちゃんのことで羨ましかった事が幾つか有るけど特に三つあげるとセンスのよい仕事と渋い声とゴルフの腕前、最初の二つは無理だけどゴルフは何とかなりそう、もう少し修行してから行くから一緒にプレイをお願い。「Good Shot!」……中澤 栄二

久保さんとは、私が32年前事務所に入社以来、ずっと一緒に仕事をしてきました。久保さんが居ての私でした。感謝の気持ちでいっぱいです。コンペで二人きりで冗談言い合いながら貫徹して、事務所でひげ剃って作品の提出を行ったこともありましたね。私の結婚式の祝辞で久保さん、言いましたよね、「何事にもスケベになれって」…私には心に響く嘘の言葉でした。ご冥福をお祈りします。……………西澤 広智

「春」いつか、春の訪れを心待ちにする時が来るでしょう そして、その気持ちを感じる自分が蘇ってくるでしょう 今は只、止まっていいる場が掴めないでいるのです この場を抜けるにはスピード感が

必要です でも初速がつかないので それには、少しだけ年をとったようです もう少し時間がかかります……………西沢 利一

2000年頃会員委員長の久保さんは、私が会の活動に参加しやすいように常に声をかけてくださいました。出版担当副会長久保さんの一瞬のひらめきで第6集テーマ「場所に棲む」は決まりました。お忙しく会議にはよく遅刻して来られましたが、「林君ごめん」と必ず電話をくれました。その携帯番号の登録を消すのはあまりにも悲しいです。BMWが似合ってダンディーでした。Mスポーツは足回りが固くて腰が痛いよと言いつつ楽しそうでした。これからも駆け抜けてください。謹んでご冥福をお祈り致します。……………林 隆

贈る言葉が出てきません。その代りに久保さんとの会話は思い出せます。「この店のパンは美味しいよね。僕は良くこの店のパンをお土産に買って帰るんだよね」総務委員会へ出席する途中のサービスエリアでの会話がなぜか鮮明に思い出せます。そして私もそのパンが好きでした。そんな些細な会話が懐かしくもあり、今は悲しい。……………福島 透

久保さん、誠に残念な思いです。ご生前の笑顔ばかりが思い出され、胸が痛みます。JIAでは建築家の役割や社会性など、たくさんのことをご指導頂きました。まだまだ教えていただきたい事がありましたのに、悔やまれてなりません。心よりご冥福をお祈りいたします。……………藤松 幹雄

久保さんが亡くなられたと言う知らせは、余りにも突然で信じられませんでした。短いお付き合いの中で、その発言や行動力から様々な困難を乗り越えてきた強さを感じました。これからもっともっと、建築の話が聞く事が出来ると思っていましたが、本当に残念です。……………丸山 和男

私がJIA長野県クラブに入って一番初めに話をして下さったのが久保さんでした。「君は伊那なんだって」と大先輩から突然話しかけられ、たじたじでした。伊那市高遠町にある高遠美術館を担当されていたことは後に聞いたのですが伊那のことを良く知っていて話は進みました。「大変気さくな方でダンディーでかっこいい!」という印象を受け以後こと有ることに色々なことを相談に乗って頂きました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

……………丸山 幸弘

中越沖地震では長野県クラブは柏崎市の住宅相談に行きましたが、募集しても予定の人数に達しなかったので無理を言って参加していただきました。帰りに事務所のスタッフにおみやげを買っている姿を見て、責任感と細やかな心配りに感銘を受けました。困った時に相談すると、“なんでオレなんだよ”と照れくさそうに笑いながらいつも引き受けて下さいました。久保さん安らかにお眠り下さい。……………山口 康憲

## 久保さんとの思い出

貴方が遠い彼方へ飛び立つて早2ヶ月以上も過ぎました。彼岸も終わり遅かった長野にも、ようやく春を迎えようとしています。人の人生はいろいろな形で終焉を迎えます。しかし何故そんなに早くもない足で走り去っていったんでしょう、残念です。彼と最初に出逢ったのは、確か長野市立博物館の現場だったと思います。若いのに非常にりりしい感じで俳優のプロマイドから出てきたような気がしました。それからずっと一緒にお付き合いをさせて頂きました。彼の生まれた町にある建物をレストランに改造しようという現場で、施主、ゼネコンの皆様方がいる所に私が呼ばれ、打ち合わせ中に屋根を指差し「瓦をどうしたらよいか」と質問してきました。私は即座に「今の古い瓦を使って葺き替えしたら一番いいですね」と答え、彼の顔を

賛助会長 坂田守夫

見るとニコッと笑顔を私に返してきました。今でもその顔を鮮明に覚えております。彼が皆様の前に私を呼んだのは、彼の描いている事を私が必ず言ってくれるだろうと、確認の為だったと思いました。飲みに行く機会、食事に行く機会、思えば何百回とあったでしょう。彼の生き方が本当にすばらしく感じたのは、どんな時でも支払いは必ず割り勘だった事です。今でも敬服しております。JIAの現状、これから先どのような着地点を見出すか、彼を失った事は大切な財産を失ったように大きいです。しかし悲しんでばかりでは前に進みませんし、彼が思い浮かべていた目標に一歩でも近づける様、残った人たちが一致団結して行けたらと存じます。“頑張りましょう”彼は我々をいつも、いつも天国から見ていてくれます。

## 久保さんへの言葉

### 賛助会

6年という長い間、副会長としてご尽力された久保さんの訃報は残念でなりません。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、当社社員一同、謹んで哀悼の意を表します。…………浅間軽石

突然の訃報に本当に残念な思いです。私も色々、ご相談に伺うことがあったのですが、お忙しい中、丁寧に対応いただき、相手を思いやる気持ちがいつも滲み出ているように思います。また、独特のカリスマ性をお持ちになっており、本当に上手く人をまとめられていたように思います。このようなお人柄が会の発展にも大きく寄与されたものだと思います。久保さんの遺志に少しでもお手伝いできるよう弊社も微力ながら尽力したいと思います。

…………INAXサンウェーブマーケティング／奥田海太

久保副所長様の思わぬ訃報に信じられない想いでいた。ゴルフをこよなく愛し優れた行動力とご指導力・実績には感服しておりました。豊富な経験とご手腕・何より建築にかけた熱い想い、建築業界の柱を失った思いです。…………岩野商会／高野正和

宮本忠長先生のもと小布施の町並み修景事業を手がけられた久保さんが小布施の町並みをケーブルテレビで何度も楽しそうに紹介なさっている姿を思い出します。

…………元旦ビューティ工業／坂塚孝夫

私は雲の上の存在の久保先生であり、JIAの懇親会でも遠くから拝見しているだけで、なかなかお話する機会もありませんでした。そのことは残念で悔やまれます。ただ少しお話されていた「美しい物・仕事へのこだわり」の気持ちは我々引き継いで行きたいと思っています。…………コーティングコーポレーション／佐藤隆志

久保副所長におかれましては、JIA関東甲信越支部研修会にて朝方まで肩を組みながら合唱した事が思い出されます。

…………三協立山アルミ／宮原

久保隆夫様。宮忠さんの重鎮でいらっしゃった久保さんには人知れず大きな重圧と責任がおありになった事でしょう。久保さんが成し遂げて来た数々の偉業に対して心よりの敬意を申し上げます。

…………信越ビー・アイ・ビー／小林義孝

久保さんに感謝御世話になり本当にありがとうございました。本当に残念でなりません。先見の明があり、時代を先取りする感性をお持ちで、いろいろと刺激を受けて訪問する機会も増えてきました。我々に気軽に声を掛けてくださる気さくな人柄も魅力的で情熱的に語り、熱心に取り組む姿勢が目に焼き付いて私の心の中に久保さんは居ます。本当にもっともっと一緒に付き合いをしたかった。

…………炭平コーポレーション／和田一

JIA長野県クラブの良きリーダーである久保先生の突然の訃報

に、驚きとともに残念でなりません。人の世がいかにはかないものとは言いながらも、志なればこの世を去られることは、この上なく悲しくたまらないものです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

…………泰成電機工業／片桐佑介

会の発展にご尽力された久保様の想いを無駄にせず、弊社も賛助会員としまして会の更なる発展に微力ではございますが協力させていただく所存です。…………ダイフレックス 新潟営業所／松井一樹

会議や集会の席で久保さんとお行き会いするといつもおどけた表情で周りを笑顔にされていた事が頭に浮かびます。あの笑顔をもう見る事が出来ないと思うと寂しい気持ちでいっぱいです。

…………タクト／青柳岳史

故久保副所長は会合等でお会いした際など、こちらの存在に気付くと必ず会釈をしてくださり、時には物件の状況についてなど一言二言声をかけていただいたりと、私のようなものに対しても常に気を使っていただいたことを大変うれしく感じてきました。

…………長野ナブコ／井出透

お会いする機会は限られていましたが、いつも身近な感覚で声をかけて頂いたこと、非常に印象深く残っています。人懐っこさと繊細さを感じさせる独特な表情が、脳裏に焼きついています。ありがとうございました。…………日本オスモ／西村好弘

JIA長野県クラブ地域会で長年に亘り副会長としてご活躍され、小布施の町並み再生に多大な貢献をされた久保さまのご逝去は、これからいろいろご教示いただこうと思っていた矢先でしたので、同郷の私にとって大変残念でたまりません。

…………日本エンパイロケミカルズ／小林勝志

久保隆夫様の訃報から三月が過ぎようとしております。真に残念でなりません。ご生前に残されましたご功績の数々は、指針として残ることでしょう。…………富士建商／平井和広

私は直接久保さんとお話ししたことはなかったけれど、出版委員会の出会いのなかで、芯のしっかりした思慮深い人という印象があります。…………メカ・エンジ／加藤昇

建築家として、又は人生の先輩としても真似はできないけれど恰好いい人だと思っていました。そして個性ある人が居なくなつて何かとも寂しい心持がしたこと、思い返せば場数も踏んでいない自分が何をアピールしていたのだという恥ずかしい想いが残りました。しかし今はご冥福を祈るばかりです。…………本久／岸本貴志

宮本所長始め所員の方やクライアントの方と素晴らしい作品を作り上げて来られた久保さんと突然のお別れとなり寂しい想いで一杯です。…………ランバーテック／丸山淳治

## 今後の行事予定

4月18日(月) …… 第1回出版委員会

4月22日(金) …… 2011年度 JIA長野県クラブ通常総会

講演会 講師：泉幸甫氏 演題：「建築の設計って何？」

## お知らせ

事務局として活躍してくれていました平岡美智子さんが退職されました。約3年間、お世話をなり本当にありがとうございました。後任には、佐藤清美さんをお迎えしました。

### 編集後記

この度の長野県北部地震並びに東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申しあげます。第5回建築祭は大震災翌日の開催となり、文化講演会は中止となりましたが、泉幸甫先生は、翌日行われる卒業設計コンクール審査のためにと、混乱の中にも拘わらずかけつけて下さいました。遠方よりお越しいただいた審査員の皆様、会員・事務局、賛助会の皆様、このような大災害時にご参加ご協力頂きまして本当に有難うございました。…………勝山敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／勝山敏雄 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303

発行人／赤羽吉人

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail [jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)